

# 眼 *Insaghit*

令和3年11月26日

## 安心感に浸る まねる・くり返す

第1学年 国語科 ぼく・わたしの「むかしばなしみつけたぞ! ずかん」をつくろう

「おもしろい!」「かわいそう!」「ふしぎ!」「どきどき!」「こわい!」「ハッピー!!」読み聞かせが終わった途端に子供たちから上がる直感的なキーワード。一年生が物語を聞いて直感的に感じたことを一言に集約して一生懸命に伝えようとします。

「そうだね。」「どこでそうかんじたのかな。」と様々な感じ方を教師が受け止めて価値付けていく。教師の価値付けによって「安心感」を得られた子供たちは、さらに「すいすいがあった!」「よくばりがあった!」と物語から感じる自分の捉えを前面に押し出

して勢いづきました。感じたままを思いっきり出していけることが、1年生が「読み」を深めようとしていく大切なきっかけだと感じました。この後、自分の感じたことを「むかしばなしみつけたぞ! ずかん」として書きためていきます。「自分の感じたことを表現できた」という自信は、教師の価値付けによって支えられていました。この「安心」を踏み台にして、子供たちは新たな物語の世界へ踏み出していきます。前に並べられた様々な絵本を手に取り、読書に浸りながら「みつけたぞ! ずかん」を書いていきます。「教師の価値付け」によって支えられながら、「自分の直感的な思い」を思いっきり表現し、その思いの出所を「〇〇ページから」というふり返りで確かめ、思いの訳を書きためていく「みつけたぞ! ずかん」。共通教材「ふしぎなおなべ」で確かに手に入れた方法を繰り返すことで、「読む」⇒「表現する」を通して、物語との関わりに浸っている姿が生みだされていました



## 比較する・つなげる

## 三角形との関わり

第3学年 算数科 どんな形になっているの? ~三角形と角~

円にかかれた12個の点を選んで、つないで、子供たちが作り出した様々な三角形。「似ているものどうしてわけてみよう。」「何が似ているのかな。」と問い返すことで、子供たちの思考が動き出していました。「これとこれは、似ていると思う?」友達からの承認や同調がよりどころとなる3年生は、自然と周り友達に問いかけ、相談が始まります。

「似ているとおもうよ。」「この長い辺が、円の中心を通っているでしょ。」「似てないと思う。」「この辺とこの辺の長さがなんか違う気がする。」「じゃあ、測ってみようよ。」定規を持ち出して、各辺を測り始める。「やっぱり、こっちは二つの辺が

同じ長さだけど、こっちは二つの辺の長さが違う。」「だから似ていないと思う。」比較しながら、三角形同士をつなげる要素を一生懸命に探していきました。

友達と交流する中で、「同じ長さの辺を持つ三角形」「直角を持つ三角形」など、比較する・つなげるといった学ぶ術をスパイラルで働かせていくことで、三角形が持つ概念が見いだされていきます。じっくりと三角形と関わり合うことで、「形がなんとなく似ている。」という感覚的な捉えから「直角があるところが一緒」「二つの辺の長さが同じところが一緒」「三つの辺の長さが同じところが一緒」と明確な共通項を見いだして概念化していく過程がそこには現れていました。

